

動きの中から行書の特徴をつかむ

—「白夜」— (二年)

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

中学一年生の書写は、行書の入門期にあたる。初めて目にする書体に抵抗を感じる生徒も多い。そこで、「競争する」という遊びを通して、動きの中から行書の特徴(点画の連続、点画の丸み)をとらえることを目指す。

2 指導計画

第一時 行書がどんな書体なのかを知る。

第二時 行書の特徴(点画の連続、丸み)を理解して「白夜」を書く。(本時)

3 本時の目標

次の二点を目標に授業を行った。

- ①「行書は難しい」という先入観・抵抗をなくす。
- ②実際に筆を動かしながら行書の特徴をつかむ。

4 本時の展開 (次ページ参照)

4 本時の展開

【目標】 行書の点画の連続、丸みを理解する。

【評価】 行書の点画の連続、丸みを理解することができたか。(学習プリント、まとめ書き)

	学習の展開	指導上の留意点
導入	○教科書の教材文字を見て「白夜」を書く。(試書1)	・学習プリントを配る。
課題を焦点化する	○教材文字と「試書1」を比較して、自己の課題を学習プリントに書く。(比較1)	・筆使いを中心に比較するよう指示する。
	○教師が黒板に模造紙を貼り、すべての点画を連続させてできるだけ速く「白夜」を書く。生徒は、その間何秒かかるか、声を出してカウントする。	・字形より速さを優先させて書く。 ・「白」の横画の連続、「夜」の人偏の連続や丸み、右払いの変化など、行書の特徴を意図的に示す。 ・模造紙は縦78cm×横54cmのものを使用する。
	○教師と生徒でどちらが速く書けるか競争する。(試書2)	・教師の書き終わりの合図とともに筆を置くことを事前に確認しておく。 ・教師より速く書けた生徒を確認し、少なければ再度試みる。
点画の連続、丸みを理解する	○再度「試書1」と教材文字を比較し、「比較1」では気づかなかった課題を学習プリントに書き、発表する。(比較2) <生徒の反応> ・筆を速く動かす。 ・点画をつなげる。 ・折れを丸くする。 など	・競争して気づいたことをもとに考えるよう助言する。 ・行書には点画の連続、丸みという特徴があり、見えないうえと画との連続が行書の形を作るうえで重要な要素になっていることを伝える。 ・丸みについては、野球の走塁などを例に挙げ、より速く移動するために軌道が丸くなっていることを伝える。
速く、整えて書く	○「試書2」と教材文字を比較して、問題点を学習プリントに書き、発表する。(比較3) <生徒の反応> ・つながりすぎ。 ・読みにくい。 ・形がよくない。 など	・文字は相手に伝達するための手段でもあることを伝え、「これが手紙の字だったらどう？」など具体的な場面をイメージさせる。 ・教材文字には連続している部分としていない部分があり、後者では画と画の間に一呼吸おくことで、筆の動きにリズムが加わっていることを伝える。 ・速く、整えて書くためには、筆のリズムが重要であることを伝える。
点画の連続、丸みに注意して書く	○教材文字の点画の連続や丸み、見えないうえと画との連続に注意しながら「白夜」を書く。(まとめ書き)	・筆の動きがどのようにになっているか想像しながら教材文字を見るよう助言する。 ・点画の連続や丸みは、筆の動きによって自然に出てくるものであることを伝える。
	○学習プリントとまとめ書きを提出する。	

5 成果と課題

実際に筆を動かしながら、行書の特徴である点画の連続や丸みを理解することは重要である。今回の実践では、「試書1」で楷書の筆使いを引きずっていた生徒も、「まとめ書き」ではより行書らしい形を身につけることができていたように思う。教科書を見て行書の特徴を理解することはできていたように思う。教員能まで習得できるわけではない。しかし、行書の入門期にあたる中学一年生だからこそ、知識・技能の両方を身につけることが重要であり、それは教師が実際に示したり、生徒が自分で体験したりすることによって、徐々に身につけていくものだと考えている。



【試書1】



【まとめ書き】